



# 現場の最前線をお届け!

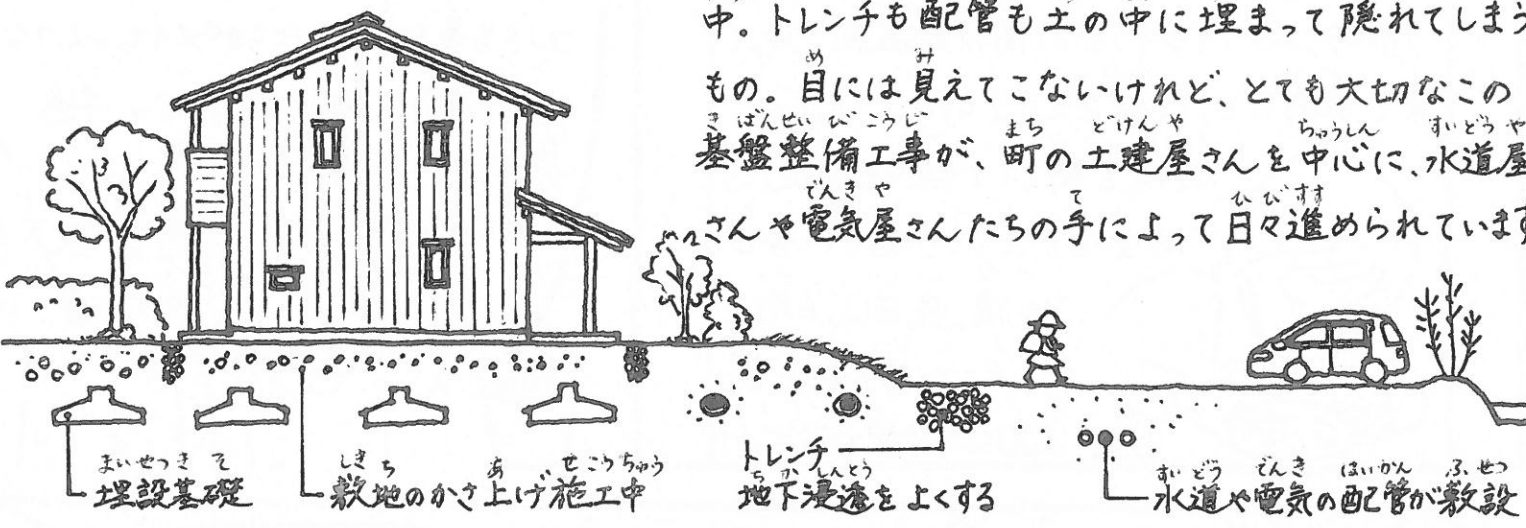
集合住宅だより No.1 ~ No.3 にわたって集合住宅づくりの特徴をご紹介します。解体コンクリートガラの利用、地域の植物でつくる緑地、神山の山の木でつくる家。今回のお便りは、いつもと趣向を変えて、No.1 ~ No.3 にまつわる「現場の今」をお届けします!



## 地中で生きてる!

## 目には見えない大切な工事の今

現在、建設現場では、解体工事で行われた再生砕石(宝の山)を使ってトレンチづくりや敷地の造成が進んでいます。同時に、敷地の中をめぐる水道や電気等の配管工事も進行中。トレンチも配管も土の中に埋まって隠れてしまうもの。目には見えてこないけれど、とても大切なこの基盤整備工事が、町の土建屋さんを中心に、水道屋さんや電気屋さんたちの手によって日々進められています。

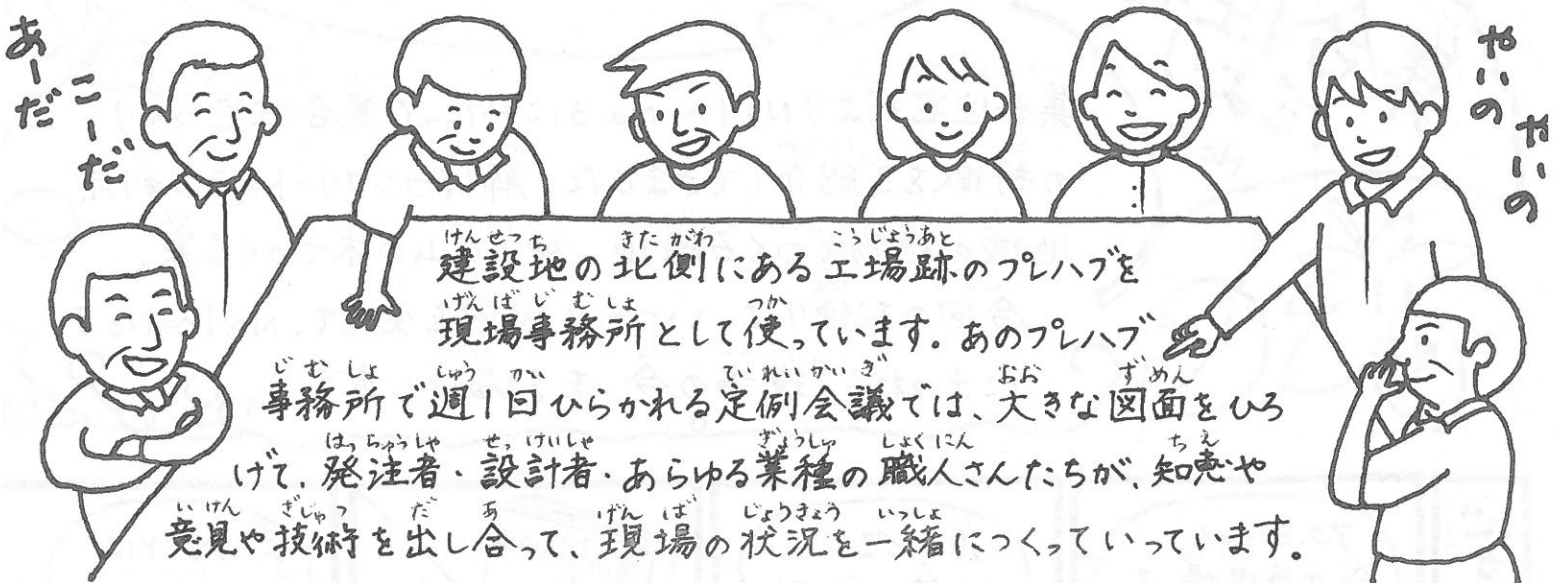


**解体ガラを引き継ぐ、町の土建屋さん**

解体ガラの再利用という新しい試みにご協力してくださっているのが、神領の昇旭建設さんと、協働している上分の田村建設さん。責任感いっぱい頼もしい藤本さんと、いつもにこやかに楽しそうな森本さんの「がんばっていきましょうね!」の言葉が嬉しく心強い日々です。

基盤整備工事発注者: 神山市  
 設計・監理者: 神山市のあす環境デザイン共同企業体  
 施工者: 株式会社昇旭建設  
 工期: H29.6 ~ H30.2

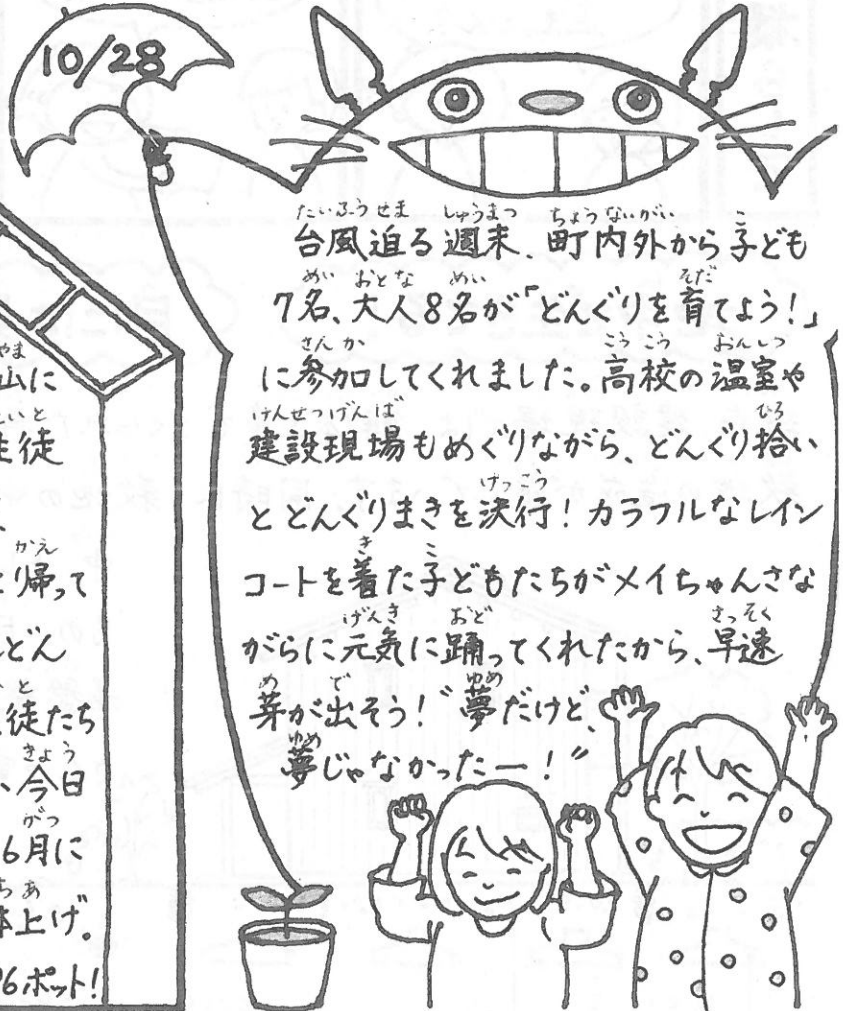
# レポート特集! プロジェクトの特徴にまつわる現場の今



建設地の北側にある工場跡のプレハブを現場事務所として使っています。あのプレハブ事務所で週1回ひらかれる定例会議では、大きな図面をひろげて、発注者・設計者・あらゆる業種の職人さんたちが、知恵や意見や技術を出し合って、現場の状況を一緒につくっていています。



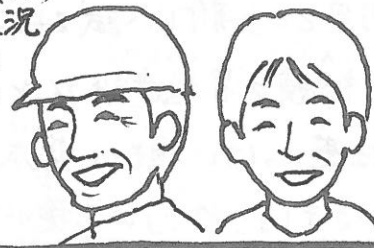
城西高校造園男子3年生との6回目となる授業は、神山の山に入って種とり&種まき。雨の降る中、生徒たちは熱心に種を採取。マルバウツギ、ノイバラ、ムラサキシキブetc. 高校の温室に帰って来て、果肉をと、た種をまきました! どんどん興味を持って作業する生徒たちの変化がとっても嬉しい。今日この頃。先日は、6月に挿し木した苗を鉢上げ。現在、温室には40種2096ポット!



台風迫る週末、町内外から子ども7名、大人8名が「どんぐりを育てよう!」に参加してくれました。高校の温室や建設現場もめぐりながら、どんぐり拾いとどんぐりまきを決行! カラフルなレインコートを着た子どもたちがメイちゃんさんながらに元気に踊ってくれたから、早速芽が出そう! 夢だけど、夢じゃなかったー!



参加者とスタッフ11名で車に乗り込み、「山しごとを見に行こう!」ハレツツゴー! 紅葉美しい山道を抜けて伐採現場へ。森林組合・栗尾さんから山の状況等を伺ったあとは、上分の神山製材、森長さんの元へ。山から家ができる過程を一気通貫!



発行  
2017年11月  
神山町と  
神山つなぐ公社  
来月も  
お楽しみに!

